



## 松本 陽子

特定非営利活動法人  
愛媛がんサポートおれんじの会

高校3年生のときに父親をがんで亡くし、その後33歳のときに自身が子宮頸がんにかかると診断された。2008年、愛媛でがん患者と家族の会を設立し翌年にNPO法人化。愛媛県からの委託を受けて、仲間と共にピアサポート事業などに取り組んでいる。  
一般社団法人全国がん患者団体連合会理事、緩和ケア委員会委員長。



## 内富 庸介

国立がん研究センター中央病院  
支持療法開発部門長/  
J-SUPPORT代表

1984年広島大学医学部卒。88年国立呉病院・中国地方がんセンター精神科医師としてがん患者の精神的ケアに携わり、91年米国スロンケタリングがんセンター-記念病院で精神的ケアについて研修。93年広島大学医学部神経精神医学教室に転任し、がん患者のクオリティオブライフ（生活の質、生命の質）に関する医学教育に従事。95年国立がんセンター精神腫瘍学研究部の創設に携わる。2010年4月より岡山大学精神医学教授、2015年1月より現職。生命の危機に伴う抑うつ対策とその機序解明、そして生命に向き合う精神医学の教育研修を使命とする。専門は、がんの診断後に生じる落込みや不安のケア。日本サイコオンコロジー学会副代表理事。



## 中釜 斉

国立がん研究センター理事長

1982年東京大学医学部卒。1990年同大学医学部第三内科助手。1991年から米国マサチューセッツ工科大学がん研究センター・リサーチフェロー。1995年以降国立がんセンター研究所発がん研究部室長、生化学部長、副所長、所長を歴任。2016年4月より国立がん研究センター理事長・総長。ヒト発がんの環境要因、及び遺伝的要因の解析とその分子機構に関する研究に従事してきた。分子腫瘍学、がんゲノム、環境発がんが専門。



## 島田 和明

国立がん研究センター中央病院長

1982年京都府立医科大学卒業後、東京大学医学部第2外科に入局。1990年から国立がん研究センター中央病院肝胆膵外科医として従事、1000例以上の肝胆膵外科手術を行う。2020年4月から同病院長に就任。昨年度までAMED革新的がん医療実用化研究事業にて、肝胆膵外科領域の研究開発「根治が見込めるがんに対する外科侵襲の軽減とQOL改善を目指した標準治療法確立のための多施設共同第三相試験」の研究を実施。



## 大津 敦

国立がん研究センター東病院長

1983年東北大学医学部卒。1992年博士号取得。以降、米国MDACC短期留学期間を除き、国立がん研究センター東病院消化管腫瘍内科医として勤務。2012年早期・探索臨床研究センター長就任。がん新薬早期開発試験、医師主導治験とTR研究体制整備を推進。2015-2017年日本医療研究開発機構(AMED)科学技術顧問。2016年より現職。ASCO国際委員、日本臨床腫瘍学会理事(兼国際委員会委員長)等の学会活動に加え、PMDA、厚生労働省、文部科学省の各種専門委員も歴任。